



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党八千代市議団メール: kyousan@jcp-yachiyo.jp

日本共産党
八千代市議団
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>



第653号

2024年11月4日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

八千代市戦没者追悼式に参加 米本空襲と戦争の記憶を風化させない

日本共産党市議団は、10月2日ふれあいプラザで行われた、第60回八千代市戦没者追悼式に参加しました。(写真)

八千代市は1945年2月19日、米本地域にB29が襲来して爆弾が投下され11人が死亡しています。当時の米本には医療機関がなかったために重軽傷者を牛車で船橋市まで運搬したとも言われています。



この八千代・米本空襲の記録や一般公募した戦争体験記をまとめた「あの日から」という冊子を八千代市は作成しています。(昭和62年発行)

また、平成30年9月15日号の広報やちよでは、東京成徳大学の生徒さん方が米本空襲を風化させないために空襲研究会として活動していることが紹介されています。

戦後79年・・・当時を知る人々の声

今、戦後79年が経ち当時のことを知る方々も少なくなってきました。私たち日本共産党市議団は議会で「語り部たちの言葉を残す」取り組みについて議会質問を行ってきました。このことにより八千代市内小中学校で行われた3人の方による被爆講話を動画として残すことができました。
※週刊市議団ニュース645号(2024年8月19日発行)に掲載

●参考：八千代市ホームページ「被爆体験講話」

<https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/4/1487.html>



「ノーベル平和賞」被爆者の努力が評価される

空襲、被爆体験、当時のことを知る人が少なくなってきた今、日本原水爆被爆者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞しました。受賞理由に「過去80年近く戦争で一発の核兵器も使用されていない事実である。日本被団協と他の被爆者の代表たちによる並外れた努力は核のタブー確立に大きく寄与してきた」とありました。被爆者のたゆまぬ努力が核兵器に悪の烙印(らくいん)を押し、その規範が核のタブーになったとし、核戦争を食い止めてきたと評価されました。

平和への希望・・・バトンをつなぐ

戦争の悲惨さを知る方々の声を残し、風化させない運動が日本で戦争を繰り返させなかったとも言われています。同様にノーベル平和賞の受賞は八千代市の学生や職員をはじめ多くの方々の活動が、これからの平和への希望につながっていると感じます。平和への願いと希望をこれからも繋げていけるよう日本共産党市議団も頑張っていきます。